

博士論文の要約

「公正価値監査－保証水準の観点から－」

松尾 慎太郎

現代会計において、意思決定有用性アプローチのもと、情報利用者の意思決定に有用であることが、提供する情報の質として重要視されるようになった。このような流れを受け、公正価値測定が導入され、公正価値による測定の範囲は拡大している。その結果、今日の財務諸表は、取得原価と公正価値の混合測定モデルによって作成されている。このような測定値の性質の違いは、監査人の証拠の収集評価のあり方にも影響を及ぼすものである。見積りの要素を含む公正価値に対する検証可能性は取得原価よりも低いと考えられ、監査人が両者に対して同等の保証水準を保つことが出来ているのかについては疑わしい。しかしながら、現在の財務諸表監査においては、多元的な測定値が混在した財務諸表に対して、適正表示に関する単一の保証水準の監査意見を表明するにとどまっており、合理的保証の枠組みでの関与を行っている。はたして、取得原価と公正価値が混在した財務諸表に対する監査人の関与のあり方として合理的保証の水準にある監査が適切なものであろうか。あるいは、合理的保証の水準が以前よりも低下しているのではないか。

このような問題意識に基づき、本論文では以下の4つの研究課題を分析することを目的としている。

- ① 公正価値概念とはいかなる概念であり、今日の混合測定財務諸表に問題点はないのか
- ② 財務諸表監査における保証とは何を意味し、保証水準概念とはいかなる概念であり、その保証水準を決定する要因は何なのか
- ③ 公正価値測定が保証水準にどのような影響を与えているのか
- ④ どのようにして保証水準を伝達するのか

それぞれの研究課題に対応して、本論文は、大きく4部で構成されている。

第Ⅰ部（第１章・第２章）では、本論文の研究課題の①と対応し、公正価値会計の台頭と題して、公正価値概念の明確化及び、会計観の変容と混合測定財務諸表に関して論じている。

第１章では、公正価値とは一体どのような概念なのであろうか、という問題意識のもと、財務会計の文献及び基準から、公正価値という単語の用語法について整理し、その測定方法の特徴を確認したうえで、本論文における公正価値概念について明確化することを目的としている。まず、公正価値について述べた文献を概観し、公正価値の用語法について整理し、次に、公正価値測定に関する会計基準に基づき、公正価値測定の評価技法及びインプット要素のヒエラルキーの観点から、公正価値測定の特徴について確認し、そして、用語法の整理及び公正価値測定の特徴を踏まえ、本論文での公正価値概念についての明確化を行っている。

第２章では、今日の会計基準設定主体は、一体どこに向かおうとしているのだろうか、という問題意識のもと、財務会計の文献から、会計の定義について確認し、その変化の基礎となる会計観の変容を検討したうえで、今日の混合測定財務諸表の現状と問題点を明らかにすることを目的としている。まず、会計の定義について述べた文献を概観し、会計という行為が担っている役割について検討し、次に、会計の定義の変化に影響したと考えられる会計理論を構築する際の基礎となる会計観の変容について確認し、そして、今日の混合測定財務諸表の現状についての問題点と解決策について考察している。

第Ⅱ部（第３章～第５章）では、本論文の研究課題の②と対応し、財務諸表監査における保証と保証水準と題して、財務諸表監査における保証の意味と、保証水準概念の明確化及び保証水準の決定要因について論じている。

第３章では、監査人による財務諸表監査とは一体どのような行為であり、どのような点に保証という要素を見出せるのであろうか、という問題意識のもと、監査論の文献から、監査の定義及び監査行為について確認し、監査人による財務諸表監査という行為における保証の意味内容を明らかにすることを目的としている。まず、監査の定義について述べた文献から、財務諸表監査の役割につ

いて概観し、次に、財務諸表監査における証明機能の意味と保証の発現について確認し、そして、財務諸表監査における保証の意味内容を明らかにしている。

第4章では、保証に水準という考え方は存在するのであろうか、という問題意識のもと、保証水準の生成について確認し、監査制度における保証水準の多様化に関する整理を行い、保証水準概念を明確化することを目的としている。まず、監査論の文献から保証水準概念の生成について概観し、次に、監査制度における保証水準の多様化に関して、監査基準及び保証業務の枠組みに基づき検討し、そして、混同されやすい概念との区別から保証水準概念の明確化を試みている。

第5章では、どのようにして保証水準は決定されるのであろうか、という問題意識のもと、保証水準の決定要因に関する先行研究を概観し、それらの分類整理から公正価値測定の保証水準への影響についての分析視角を導出することを目的としている。まず、保証水準の決定要因についての先行研究を概観し、それぞれの主張について検討し、そして、それらの決定要因についての分類整理に基づき、公正価値測定の保証水準への影響についての分析視角の導出を行っている。

第Ⅲ部（第6章・第7章）では、本論文の研究課題の③と対応し、公正価値監査の多面的検討と題して、保証対象及び保証手続の観点から、公正価値測定の保証水準への影響について論じている。

第6章では、公正価値測定は、保証対象の観点において、保証水準にどのような影響を与えているのだろうか、という問題意識のもと、財務情報の質的特性としての検証可能性の位置づけを確認することで質的影響を検討し、今日の会計基準における公正価値の測定範囲を確認することで量的影響を検討し、保証対象の観点における公正価値測定の保証水準への影響を明らかにすることを目的としている。まず、財務情報の質的特性における検証可能性概念の位置づけの変遷と測定属性の関係についての整理を行い、公正価値測定の質的影響を確認し、そして、今後の公正価値測定の範囲の拡大の可能性から、公正価値測定に関する会計基準について確認し、保証対象における公正価値測定の量的影

響を確認している。

第7章では、保証手続の観点において、公正価値測定は保証水準に対して、どのような影響を与えているのだろうか、という問題意識のもと、監査基準に基づき公正価値監査における監査人への要求事項を整理し、公正価値監査の失敗に関する処分事例の分析から公正価値監査の課題を抽出し、保証対象の観点における公正価値測定の保証水準への影響を明らかにすることを目的としている。まず、公正価値監査において論点となる会計上の見積りに関する監査基準を概観し、監査人への要求事項を整理し、そして、公正価値監査に関する処分事例の分析を通じて、公正価値監査において監査人が直面している課題を検討している。

第IV部（第8章）では、本論文の研究課題の④と対応し、監査保証論への展望と題して、保証水準の伝達の可能性について論じている。

第8章では、監査報告書を通じた保証水準の伝達の可能性は存在するのだろうか、という問題意識のもと、監査報告書の機能と役割について検討し、監査報告書改革の議論を整理し、保証水準の伝達の可能性を探ることを目的としている。まず、監査報告書の機能と役割についての議論を概観し、監査報告書がオピニオン・レポートかインフォメーション・レポートか、という議論の本質について検討し、次に、現在、国際的に行われている監査報告書改革に関する議論を整理し、そして、それらの議論を踏まえ、保証水準伝達の可能性について検討している。